

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：32636  
 研究種目：基盤研究(C) (一般)  
 研究期間：2017～2019  
 課題番号：17K02690  
 研究課題名(和文)トルコ諸語のプロソディーをふまえた通言語的実験音声学研究

研究課題名(英文)Cross phonetic study on prosody of Turkic language

## 研究代表者

福盛 貴弘 (FUKUMORI, Takahiro)

大東文化大学・外国語学部・教授

研究者番号：00407644

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：トルコ語は、基本的には語末が高くなるという語声調が主でアクセントの位置の指定がない高さアクセント言語である。ただし、約10%の語彙には、例外的に語中のアクセントの位置の指定がある。この例外アクセントの位置は音節構造と密接に関連しているため、より精査を加えるためにTurkce Sozlukの62722語の見出し語を対象として、3450種、のべ223539件の音節構造の一覧を作成した。トルクメン語については、母音のIPA表記の精査と、音調の素描を行なった。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

トルコ語の音節構造一覧については、国内外問わず一つの辞典の全見出し語を対象としての計量化は行なわれておらず、重要な基礎資料となる。トルクメン語の音声については、簡単な発音指導レベルの記述はなされているが、音響音声学的な分析はこれまでの研究でほぼ報告されてこなかった。これは、当該言語を音響音声学的に分析しようとする研究者が、これまでにいなかったからである。世界の言語の音声の紹介でもトルクメン語が掲載される機会は稀少であり、本研究による分析結果は多言語の音声を紹介する役割を担っている。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to show the list of Turkish syllable structures. The analysis subject is the headword of Turkce Sozluk 10baski (Turkish dictionary 10th edition). The number of aggregated headword is 62,722, syllable 223,539, and syllable pattern 3,450.

Then, I analyzed acoustically the Turkish vowels, accent and intonation.

研究分野：実験音声学

キーワード：トルコ語 トルクメン語 音節構造 母音 アクセント イントネーション プロソディー

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

トルコ諸語のアクセントは、語末が高くなる語声調と下がり目の指定によって実現される高さアクセント体系であると仮定している。それは、従来の強さアクセント説では、音声学の実態に合わない点や、不適切な制約や規則で説明されてきた点を解消できるからである。アクセントの概要としては、基本アクセントは下がり目の指定なし、例外アクセントは下がり目の指定ありとなっている。この例外アクセントについては、音節構造と密接な関係があるため、音節に関する精査が必要であった。

また、トルコ語以外の音声については、音響音声学的検証がなされていないのが実情であり、ボトムアップ的に記述する必要性に迫られていた。

### 2. 研究の目的

(1) トルコ語の音節構造を精査するために、本国で出版されるトルコ語辞典の全見出し語を対象として、音節構造一覧を作成すること。

(2) トルクメン語の音声の概要を示すために、母音と音調について音響音声学的記述を行なうこと。

### 3. 研究の方法

(1) トルコ語の音節構造一覧制作のために、Türkçe Sözlük 第10版の全見出し語のべ62722語を対象として、音節に区切って分類した。見出し語については、アルファベそのもの(例:A, g など)、接辞(例:-a / -e, -cacık/-cecik など)、元素記号(例:Ac, Ca などただしkalsiyumは対象とする)、外来語そのままの表記でトルコ語の表記と乖離している語(例:check-in, change など)は除外した。

(2) トルクメン語の音声について、小学校1年生の教科書となるTÜRKMEN DILIにおける音読資料から、母音と音調について音響音声学的に解析を行った。

### 4. 研究成果

(1) トルコ語の音節について、abc順、頻度順、音節構造別に3450種の音節とそれぞれの件数を一覧に示した。音節構造の基本6種となる者の割合については、図1の通りである。

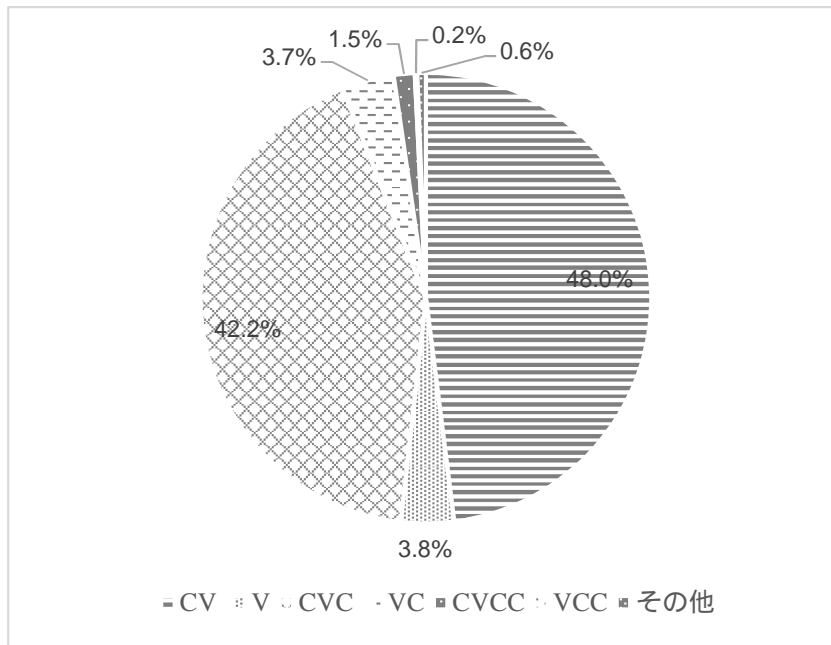


図1: トルコ語の音節構造の割合

(2) トルクメン語の母音について、音響音声学的な分析によるダイアグラム(図2)の分布から、基本母音のゆれを含めたIPA表記を確定した。また、yの二重母音化する際の表記や、äの変種についても示した。

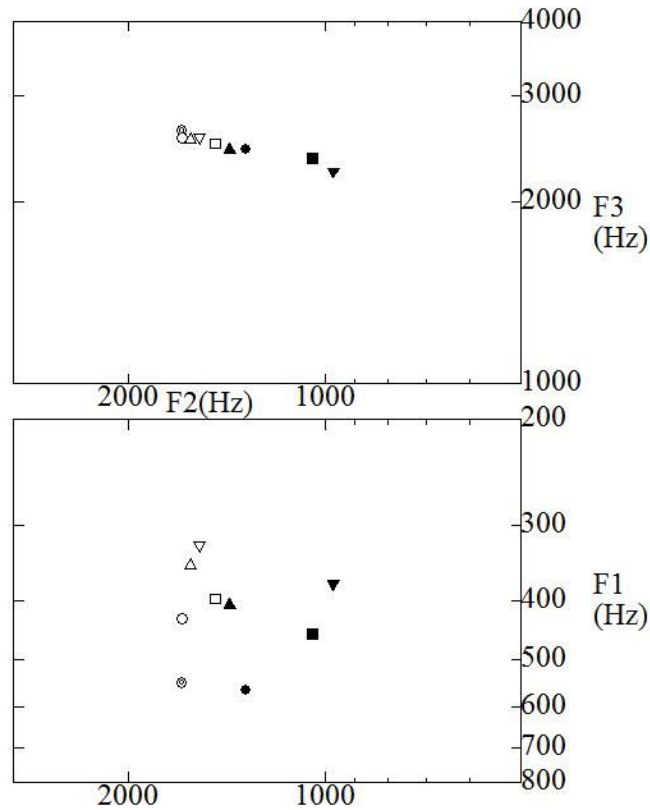


図 2：トルクメン語の母音の音響ダイアグラム  
 ( i, y, ü, u, e, ä, a, ö, o )

- (3) トルクメン語の音調の特徴は以下の通りである。
- (a) 基本的に語末は高くなる。語末が高くない例外アクセントは、語彙的アクセントとして語頭以外が高くなり、基本的に語末の語声調はあられない。
  - (b) 複合語の場合、基本的に前項の末尾が高くなり、後項の末尾は高くない。
  - (c) 動詞述語は、平叙文、命令文共に動詞語幹の語頭が強く発音され、高くなる。
  - (d) 名詞述語は、自然下降調に従う。
  - (e) 連用形に助動詞が後続すると、前項および後項の語頭が強く発音され、高くなる。
  - (f) 対句となる場合、基本的に前節末尾が上昇調、後節末尾が下降調になる。
  - (g) 後置詞は、前項となる名詞の末尾が高くなり、後項となる後置詞の末尾は高くない。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 福盛貴弘	4. 巻 22
2. 論文標題 トルクメン語の音調素描	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一般言語学論叢	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福盛貴弘	4. 巻 21
2. 論文標題 トルクメン語における母音の音響解析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 一般言語学論叢	6. 最初と最後の頁 33-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福盛貴弘	4. 巻 20
2. 論文標題 トルコ語音節構造一覧	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 一般言語学論叢	6. 最初と最後の頁 57-175
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 福盛貴弘
2. 発表標題 日本人向けトルクメン語学書におけるトルクメニスタンでの影響と効果
3. 学会等名 第12回実験言語学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福盛貴弘
2. 発表標題 トルクメン語の音調素描
3. 学会等名 第10回実験言語学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福盛貴弘
2. 発表標題 トルコ諸語における通言語的音節構造分析
3. 学会等名 第9回実験言語学研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

福盛貴弘の楽屋 <a href="http://fukumori.nomaki.jp/">http://fukumori.nomaki.jp/</a>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考